

# 建設産業ってどんな世界？

## インフラをつくる・まもる

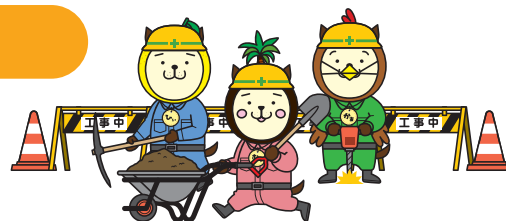
道路、橋、トンネル、堤防、ダム、防波堤といった土木構造物、私たちの日常生活や仕事、遊びの場となる建物（建築構造物）、また、私たちの憩いの場となる公園や庭園、広場。

建設産業によって生み出されるものは、この社会のあちこちに数限りなくあります。

建設産業は、私たちが生活する社会のインフラ（社会資本）をつくる、重要な産業です。

そして、インフラは「つくって終わり」ではありません。長く使っていく中でどうしても劣化が起こるため、定期的に点検し、必要に応じ、維持・補修・改良していくことが必要になります。

インフラを「つくる」「まもる」。これこそが建設産業の本質であり、社会における最大の役割です。



## 「地域の守り手」～地域の安全・安心をまもる～

台風、集中豪雨、地震…日本では多くの災害が起こります。災害が発生したとき、復旧作業の役割を担っているのも、建設産業に従事する人々です。

大雨や土砂崩れで道路が崩壊すれば、一日も早く通行できるよう、応急復旧を行います。海岸に大量の流木等が漂着すれば、重機で回収・処分を行います。雪国では、除雪作業を担う場面もあります。

建設産業は「**地域の守り手**」として、私たちが生活するうえでの安全・安心を守っています。



豪雨で崩壊した道路の復旧工事

## 建設産業のいま ～「3K」から「新3K」へ～

近年、ICT（情報通信技術）が積極的に取り入れられています。そのひとつがドローンです。ドローンは測量や点検に活用されます。人が行けない危険な場所の測量や、広範囲の短時間での撮影など、従来の方法では難しかった作業が効率的に、かつ安全に実施可能になっています。

また、ICTを活用することでショベルカーなどの重機を遠隔操作・自動操作することも可能になり、安全で高品質な施工が可能になり、「生産性向上」が図られています。

このほか、建設産業の世界でも「働き方改革」が進展しています。

国を挙げて、社会保険等への加入を進める動きや、賃金水準の向上を図る取組が進んでおり、休暇についても週休2日制をとる企業も増えています。

かつて「3K」（きつい・汚い・危険）と言われた建設産業は、「**新3K**」（給料・休日・希望）へと変化しつつあります。



ドローンを使った測量の様子